

2021年度（2022年3月期）第2四半期決算発表説明会

Q&A

Q 1 : 中期経営計画の最終年度である次年度に向けた実力利益について、どのように考えているのか。今年度の見通しではまだギャップがあるが、中期経営計画達成に向け十分な手ごたえを感じているのか。

A 1 : セグメント利益ベースだと、中計目標の1,400億円に対して約▲200億円程度のギャップがあり、ガスセグメントとその他セグメントで▲100億円ずつ要因となっている。ガス事業については、中計で掲げたコスト改革▲300億円について、次年度残りの▲100億円をやり遂げることができれば、ガス事業の利益目標に近づいていけると考えている。その他セグメントについては、新しい取り組みであるソリューション事業におけるM&Aについて、非連続な成長ということで取り組んで行くが、次年度単年度での100億円の上積みは現実的ではなく、電力・海外・不動産セグメント等でカバーをして目標達成に取り組んで行きたい。

Q 2 : 増配をこのタイミングで決めた理由と、今後の増配のペースについて教えてほしい。増配のペースについては、これまで3年に1度、増配をしてきているが、そのペースを維持していくのか、または、利益成長の度合いによっては増配のペースをあげていく余地はあるのか。

A 2 : 今回の増配は、株主還元方針の見直しの検討過程において、21年度期末配当では、出来る限り実現したいという想いがあった。その中で、コスト改革の進捗状況等を踏まえたガス事業の状況や、海外事業におけるTGNR社のような新たな利益貢献により、今後も利益成長が可能であると判断し、増配の覚悟を決めることができた。また、これまでの増配のペースは、料金改定のタイミングに合わせてきた側面が強く、現在は事業環境が変わっており、3年に1度を前提に置くべきではないと考えている。総還元性向が5割の中で増配をしていくのはハードルが高いが、様々な成長分野への投資によって得られる果実に合わせて、自信をもってできるタイミングで増配を考えていきたい。

以上